

第26回宜野湾市民福祉まつり

7月6日(日)、市民会館・中央公民館で「第26回宜野湾市民福祉まつり」(主催：宜野湾市民福祉まつり実行委員会)が開催されました。この祭りは、市民が世代を超えて楽しみながら参加でき、出会い、触れ合いながら福祉に対して理解を深められる場として開催されています。今年のテーマは「こどもの元気は地域の源」で、子どもたちによる発表やおもちゃづくり、ピエロによるショーなど、子どもたちに喜ばれる出し物をはじめとして、各種団体のパネル展や親子料理教室などの様々なコーナーが設けられていました。



7月1日は宜野湾市民の日 「市政功労表彰式典・祝賀会」

宜野湾市は、昭和37年7月1日に市制が施行されたことを記念して「宜野湾市民の日」と定めています。長年にわたって市政に功労のあった方々の表彰式が7月1日(火)、中央公民館集会場において開催されました。式典では表彰状授与のほか、市歌斉唱、市民の誓いの宣誓がありました。祝賀会では、受賞者による演奏や文化協会による華やかな余興が披露される中、多くの関係者が受賞者の功績をたたえました。



平成26年度市政功労者(敬称略)

【地方自治部門】當山 盛保

【教育部門】伊覇 行雄、多和田 文子、平良 エミ子

【文化部門】多和田 良子、重田 照吉

【体育・スポーツ部門】宮城 義雄、根本 壽浩、知名 朝雄、友寄 隆秀

【社会福祉部門】我喜屋 光子、具志堅 美江、島 勝子、富盛 スミ、
浜田 幸子、伊波 エイ子、我如古 トヨ、喜瀬 シゲ子



「沖縄国際大学米軍機ヘリ墜落事故10年」パネル展のお知らせ

2004年8月13日(金)午後2時18分ごろ、普天間飛行場に派遣されていた米海兵隊所属 CH-53D 型ヘリが、我如古上空で尾翼部分(テールローター)を落下し、操縦不能になったまま沖縄国際大学へ激突後、激しく炎上。ヘリに搭乗していた米軍関係者3名が負傷しました。当該事故において民間人の人的被害は確認されなかったものの、多数の民家や車両等の物的被害が確認されました。

普天間飛行場はその危険性から1996年にSACO合意にて返還が合意されましたが、現在も市のご真ん中に存在し続け、市民は日々、墜落の危険や騒音被害等にさらされた生活を余儀なくされています。普天間飛行場の固定化は絶対にあってはならず、本市は普天間飛行場の早期閉鎖・返還と、返還されるまでの間の危険性の除去および基地負担軽減を強く求めています。

宜野湾市では事故から10年をむかえるにあたり、下記のとおりパネル展を開催いたします。

沖縄国際大学米軍機ヘリ墜落事故パネル展

期間 8月1日(金)～8月15日(金) 場所 宜野湾市役所玄関ホール

問合せ:基地渉外課 ☎893-4411 内線310

